

2003-2004年のカナダ北極圏マッケンジー大陸棚海域とアムンゼン湾における粒子 下方輸送量の変動

Variability of downward particle flux in waters of the Mackenzie Shelf slope and the Amundsen Gulf in 2003-2004

佐々木 洋 [1]; 服部 寛 [2]; 三瓶 真 [3]; 真壁 竜介 [4]

Hiroshi Sasaki[1]; Hiroshi Hattori[2]; Makoto sampei[3]; Ryosuke Makabe[4]

[1] 石専修・理工・生物; [2] 北東海大; [3] ラバル大・理工; [4] 極地研

[1] Bioengineering, ISU; [2] Hokkaido Tokai Univ.; [3] Quebec-Ocean, Laval Univ.; [4] NIPR

2003年から2004年にかけてカナダ北極圏のマッケンジー大陸棚およびアムンゼン湾海域においてセディメントトラップを用いて、沈降粒子フラックスの地理的、季節的变化を観察した。研究の目的は1、現地性有機物と異地性有機物の割合を調べ、1987-1988年の調査結果と比較する。2、生物起源の粒子がどのようにフラックス変動に影響を与えているかを調べる(詳細は太田他参照)。3、1987-1988年と2003-2004年のトラップ採集動物を比較して、食物網の変化の指標生物を見つけ出すことである。得られた予備的結果によれば、1.異地性有機物(陸起源粒子)の割合は4-49%の間で変動した。2.生物起源粒子のフラックスは季節的、地理的に変動しており、優占する食物網構造により特徴付けられている。3.トラップ採集動物の中で翼足類が海氷の変動と対応して変化している可能性がある。